

Injury Alert (傷害速報)類似事例

乳児用歯ブラシによる下咽頭杓創 (No.34 歯ブラシによる口腔内外傷の類似事例 8)

事例	基本情報	年齢：0歳 10か月 性別：男児 体重：8.5kg 身長：71cm
	家族構成	父、母、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		下咽頭杓創
医療費		入院 657,850円 外来 10,800円
原因 対象	対象名称	乳児用歯ブラシ (図 1,2) 歯が生え始める生後6か月頃からの乳幼児を対象とした商品
	入手経路 使用状況	家庭で購入し、毎日使用していた。 (正確な使用開始時期は不明)
発生 状況	発生場所	自宅のリビング
	周囲の人 周囲の環境	両親はテーブルをはさんで向かい合って座り、母の右隣に置いた チャイルドチェア (高さ約1m) に本児が座っていた。
	発生年月日	2022年1月X日(日) 午後8時30分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	乳児用歯ブラシを本児に持たせ、歯磨きの練習をさせていた(1日1回行っていた)。会話をしていた両親がふと気づくと、本児がチャイルドチェアの肘置きから身を乗り出していた。両親がとっさに支えようとしたが間に合わず、本児が歯ブラシを口にくわえたまま、顔から床に転落した。歯ブラシは柄の部分で完全に断裂し、先端のブラシ部分(シリコン製)が口腔内に刺さった状態となった。父が刺さったブラシ部分を抜去した。この際、口腔内のどのあたりにどの程度の深さで刺さっていたのか、詳しい状態は覚えていない。その後、本児の口腔内から出血がみられた。母が救急要請した。

<p>医療機関受診時以降の治療経過 転帰</p>	<p>医療機関へ救急搬送された際には、自然気道にて呼吸障害は認めず、末梢循環不全を示唆する所見もなかった。口腔内から持続する出血を認めたが、出血部位の特定は困難であった。造影 CT 検査の結果、左咽頭後壁に軟部組織の腫脹を認めた (図 3)。小児病棟へ入院したが、入眠前 (受傷後 4-5 時間) 頃から嘔声と SpO₂ 低下 (室内気で 90% 前半) を認めたため、PICU へ入室した。経静脈的鎮静下に絶飲食管理とし、ステロイド静注、アドレナリン吸入、抗菌薬投与を行った。X+1 日に 38 度の発熱を認めたが、上気道狭窄症状は軽快したため、同日中に鎮静を終了し一般病棟に転棟した。X+2 日、耳鼻咽喉科医師による喉頭ファイバースコープにて、左披裂部に粘膜下血種および喉頭蓋谷左側にフィブリン様白苔の付着を伴う粘膜腫脹を認めた (図 4)。X+3 日にステロイド静注を終了、X+4 日の喉頭ファイバースコープで粘膜腫脹の軽減を確認し、経口摂取を再開した。計 14 日間の抗菌薬投与となるよう経口抗菌薬を処方し、X+8 日に退院した。退院時に、家庭内重大事故として再発防止に対する注意喚起を行った。退院から 10 日後、耳鼻咽喉科医師による喉頭ファイバースコープにて異常所見消失を確認し、終診となった。</p>
<p>キーワード</p>	<p>歯ブラシ、転落、口腔内外傷</p>

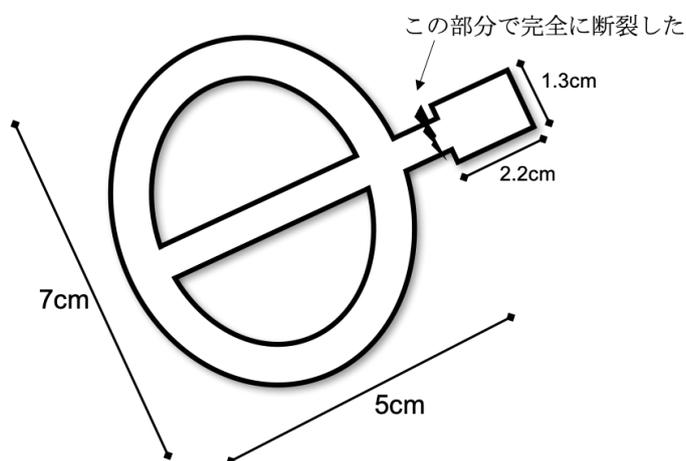


図 1 原因となった乳児用歯ブラシの模式図

持ち手は円形で、乳児が両手でも持ちやすい構造になっている。

図内に示した部分で断裂し、先端のブラシ部分のみが口腔内に刺さった。

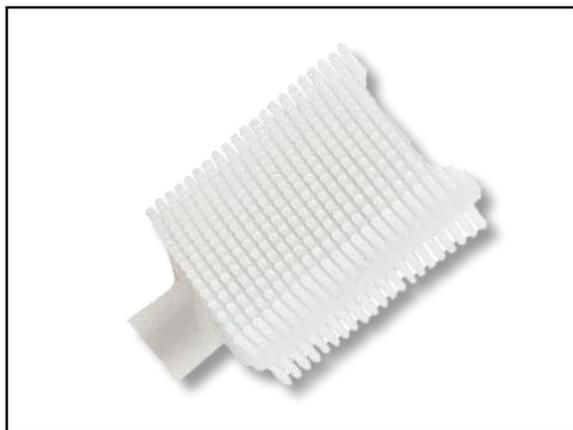


図 2 同一商品のブラシ部分を拡大した写真
両面シリコンブラシで柔らかい形状。

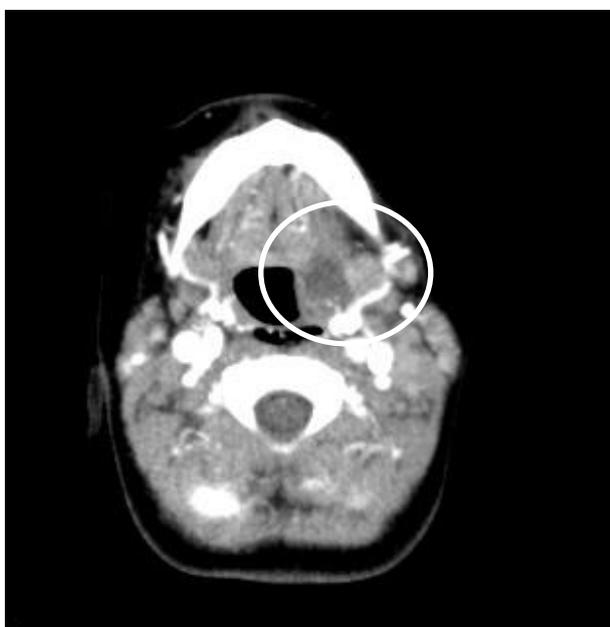


図 3 初診時の造影 C T 検査所見
左咽頭後壁に、内部が低吸収域の軟部組織腫脹を認める（実線白枠）。

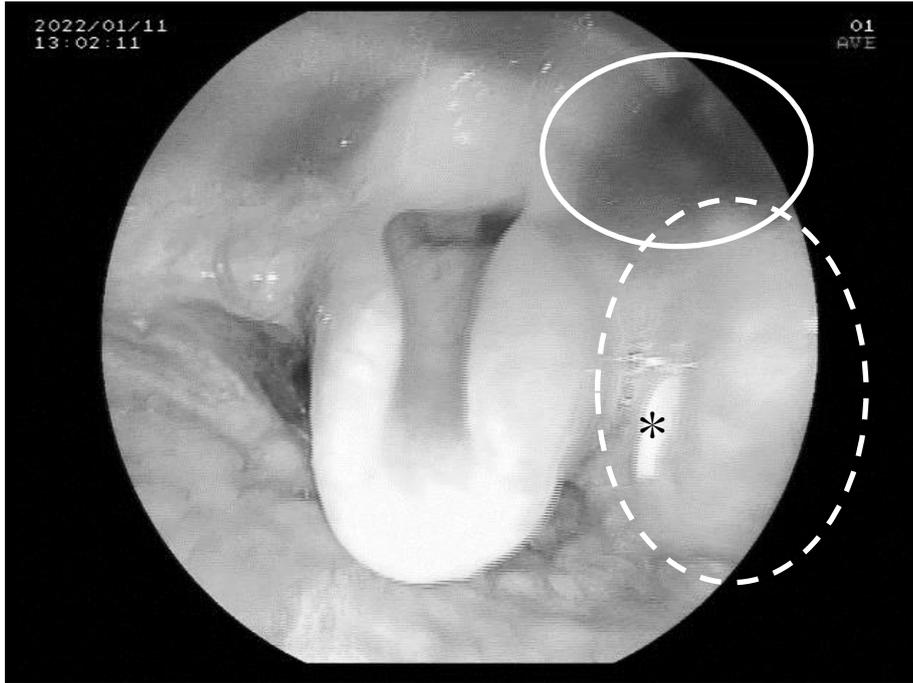


図4 喉頭ファイバー検査所見 (X+2日)

左披裂部に粘膜下血腫 (実線白枠)、喉頭蓋谷左側にフィブリン様白苔の付着 (*) を伴う粘膜腫脹 (破線白枠) を認めた。